第3講　漢文対策　その1

第5問

次の【文章Ⅰ】は、『論語』の一節と、それについて江戸時代の漢学者である皆川淇園（みながわきえん）（一七三五―一八〇七）が著した注釈であり、【文章Ⅱ】は、淇園の弟子である田中履堂（たなかりどう）（一七八五―一八三〇）が著した読書論である。これらを読んで、後の問い（問１～６）に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

（配点　45）

【文章Ⅰ】

子曰ハク、「賜(注1)也、(ア)女以テレ予ヲ為ス二多ク学ビテ而識ルレ之ヲ者ト一与カト。」対ヘテ曰ハク、「然リ。(イ)非与ト。」曰ハク、「非也。予ハ一(注2)以テ貫クトレ之ヲ。」

（『論語』による）

メモ欄

夫子(注3)蓋常聞子貢称夫子之言、似為多学諸(注4)経、又(a)能強記識其文、因以得成其徳者。是故夫子擬(注5)言其意、以訊之也。「曰、『非也。予一以貫之』」者、言学問之法、不可貪多務博、龐(注6)雑冗乱、反闇其智。唯得一要道主之。

（皆川淇園『論語繹解』による）

（注）
1　賜――孔子の門人である子貢。賜は名。
2　一以――一つのことで。
3　夫子――先生。ここでは孔子のこと。
4　諸経――『詩経』『書経』といった儒教の古典。
5　擬言――推し量って言う。
6　龐雑冗乱――雑然としてまとまりがない。

メモ欄

【文章Ⅱ】

淇園先師(注7)(ウ)每謂読書、B「日読了数紙、不如日知得数字。此似迂回、還甚便(注8)捷。」余因又云、「粗(注9)渉万巻、不如精通一巻。此似狭隘、b亦実博達。」世謂多読書者、以為博学、輒欽(注10)羨之。不知是此多識、不可謂博。C博者莫所不通達之謂、精通一書、亦可称博学。

（田中履堂『学資談』による）

（注）
7　先師――すでに亡くなった先生。
8　便捷――早道である。
9　粗渉――大ざっぱに目を通す。
10　欽羨――敬いあこがれる。

メモ欄

問１　波線部(ア)〜(ウ)のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①〜④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 30 〜 32 。

(ア)「女」 30
① かれ
② だれ
③ あなた
④ むすめ

(イ)「非与」 31
① ちがうのですか
② そむくのですか
③ けなされるのですか
④ まちがわれたのですか

(ウ)「毎」 32
① たまたま
② ときおり
③ とりわけ
④ つねづね

メモ欄

問２ 傍線部Ａ「夫子擬二言其意一、以訊レ之也」について、孔子が子貢の考えを「擬言」して訊(たず)ねた理由を筆者はどのように推測しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 33 。

① 子貢の日頃の言動には、「先生は古典を多く学んでその内容をよく覚えることよりも、人徳の完成を追求しているのだ」と考えているふしが見受けられたから。

② 子貢の日頃の言動には、「先生が古典を多く学んでその内容をよく覚えるのは、学者としての名声を獲得するためだ」と考えているふしが見受けられたから。

③ 子貢の日頃の言動には、「先生は古典を多く学んでその内容をよく覚えることで、有徳者を心服させたのだ」と考えているふしが見受けられたから。

④ 子貢の日頃の言動には、「先生は古典を多く学んでその内容をよく覚え、それによって人格を完成させたのだ」と考えているふしが見受けられたから。

メモ欄

問３　傍線部Ｂ「日 読一-了 数 紙二、不レ如三日 知一-得 数 字二。」の解釈として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 34 。

① 漢文の書物を読むうえで、日々数ページの文章を何度も音読するよりも、日々数文字から成る句を確実に覚えていくほうがよい。

② 漢文の書物を読むうえで、日々数ページの文章をただ読み通すよりも、日々数文字の漢字の意味や用法を理解していくほうがよい。

③ 漢文の書物を読むうえで、日々数文字から成る句を確実に暗記するよりも、日々数ページの長い文章を多読するほうがよい。

④ 漢文の書物を読むうえで、日々数文字の漢字の意味や用法を習得するよりも、日々数ページの文章を繰り返し読むほうがよい。

メモ欄

問４　傍線部Ｃ「博 者 莫 所 不 通 達 之 謂」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は［35］。

① 博 者 莫下 所レ 不二 通 達一 之 謂上　　博は通達せざる所の謂（いひ）莫く

② 博 者 莫レ 所レ 不二 通 達一 之 謂　　博は通達せざる所莫きの謂にして

③ 博 者 莫レ 所レ 不二 通 達 之 謂一　　博は通達の謂（い）はざる所莫く

④ 博 者 莫レ 所レ 不二 通 達 之 謂一　　博は通達を之れ謂はざる所莫くして

メモ欄

問5 二重傍線部ａ「又」、ｂ「亦」と同じ意味で用いられている「また」として最も適当なものを、次の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。ただし、同じものを繰り返し選んでもよい。ａ「又」の解答番号は 36 。ｂ「亦」の解答番号は 37 。

① これはまたとない絶好のチャンスだ。
② 校長または教頭が説明に来るはずだ。
③ 勝負では、運もまた実力のうちである。
④ 友であり、そのうえまたライバルである。

メモ欄

問６　**【文章Ⅰ】**から読み取れる皆川淇園の学問に対する考え方と、**【文章Ⅱ】**から読み取れる田中履堂の読書に対する考え方を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は 38 。

① 皆川淇園は、学問では、要点をまず把握し、それに基づいて個別の事例を分析すべきだと説いている。田中履堂は、読書によって多くの具体的な事柄を知って、それら全てを貫通する法則を発見することが大切だと説いている。演繹的に学ぶのか帰納的に学ぶのかという点で、両者の考えは対立している。

② 皆川淇園は、学問では、鍵となる部分を素早く見極めて、それを広く適用して要領よく学ぶべきだと説いている。田中履堂は、一冊の書物を精読することを通じて、学問の土台をじっくりと築くことが大切だと説いている。学びにおいて効率を重視するのか否かという点で、両者の考えは対立している。

③ 皆川淇園は、学問では、精密な分析を通じて、現実の問題に応用できる原理を抽出すべきだと説いている。田中履堂は、現実の問題の解決につながる知識を集積するためには、様々な分野に関係する書物の熟読が大切だと説いている。学びにおける実用性を重んずる点で、両者の考えは通底している。

④ 皆川淇園は、学問では、雑多な知識に惑わされないように、基軸となる要点を把握すべきだと説いている。田中履堂は、多くの書物を乱読するよりも、一冊の書物を隅々まで深く理解することが大切だと説いている。学びにおいて多くの知識を得ることに重きを置かない点で、両者の考えは通底している。

「大学入学共通テスト」２０２５年度本試験より（一部改変）

メモ欄

■2025年度 本試験

問題番号（配点）	設　問	解答番号	正　解	配　点
第５問（45）	1	30	3	4
		31	1	4
		32	4	4
	2	33	4	7
	3	34	2	6
	4	35	2	6
	5	36	4	3
		37	3	3
	6	38	4	8

■現代語訳

【文章Ⅰ】

先生［＝孔子］が言うことには、「子貢よ、あなたは私を多くのことを学んでそれを覚えている者だと思うか」と。（子貢が）お答えして言うことには、「そうです。ちがうのですか」と。（孔子が）言うことには、「ちがう。私は一つのことで貫いている」と。

先生［＝孔子］は思うに常日頃子貢が先生［＝孔子］を褒め称える言葉を聞くにあたって、多くの儒教の古典を学び、その上またよく記憶できてその内容を知り、それによって人格を完成させることができた者だと考えているように見受けられた。そのため先生［＝孔子］は子貢の考えを推し量って言おうとして、このようなことを尋ねたのである。「（孔子が）言うことには、『ちがう。私は一つのことで貫いている』（というの）」は、趣旨としては、学問の方法は、多くのことを貪って博識となることに努力をして、雑然としてまとまりがない状態になり、（知識に惑わされて）かえって叡智を暗愚にすべきではない。ただ一つの基軸となる要点を把握してそれを重視するだけだと（いうことだ）。

【文章Ⅱ】

亡くなった（皆川）淇園先生がつねづね書物を読む（うえで大切な）ことを言っていたのは、「日々数ページの文章をただ読み通すよりも、日々数文字の漢字の意味や用法を理解していくほうがよい。これは遠回りのようで、かえって非常に早道である」と。私がそこでさらに言うのは、「多くの書物に大ざっぱに目を通すよりも、一冊の書物に精通するほうがよい。これは（視野が）狭くなりそうで、これまた実は博識になれるのである」と。世間で多くの書物を読む者を博学とみなして、いつもそのような（多読する）人を敬いあこがれる。（しかし）これ［＝多読する人］は多くの知識があるだけで、博学だとは言えないことをわかっていない。博学とは精通・熟達していないところがないということを言うのであって、一冊の書物に精通することも、また博学だと言うことができる。